北海道の元気！NPO訪問

4 NPO法人 霧多布湿原トラスト

霧多布湿原の貴重な自然を将来世代へ
認定ＮＰＯ道内第１号、50万坪買い取りも達成

文・加藤知美

◇ ナショナルトラストで湿原の保全

浜中町にある霧多布湿原は国内最大級の花の湿原である。七月上旬、白い小さな綿帽子のワタスゲが広がる中に、黄色のラッパのようなエゾカンゾウが咲き始めた時期、「五〇万坪買い取りプロジェクト達成記念」と題したエコツアーに参加した。あいにく雲が低くたれこめ、展望台からは何も見えなかったが、スタッフの案内で鹿道を少し下ると、湿原を悠々と流れる壮大な景色が見えてきた。一行が立っているその場所は、「ＮＰＯ法人霧多布湿原トラスト」が寄附キャンペーンを展開して買い取ることができた特別な思いのこめられた土地であった。

ラムサール条約にも登録されている貴重な自然が残る霧多布湿原は、約三分の一が民有地。「この湿原を未来のこどもたちへ残したい」との思いから、一九八六年に任意団体の「霧多布湿原ファンクラブ」が結成され、地主と借地契約を結んで保全活動が始まった。太平洋に面した集落ではコンブ漁がさかんで、かつてはコンブを運搬するための馬が湿原に放牧されていた。そんな地域の生活史をふまえて湿原の保全や景観修復、木道設置をおこなってきた。

二〇〇〇年にその活動を引き継いで「ＮＰＯ法人霧多布湿原トラスト」を設立し、民有地を買い取るナショナルトラストの活動を始めた。地主に、湿原を楽しませてもらえる感謝を伝えつつ、「この湿原を譲ってください」と毎年手紙を送り、活動の趣旨に賛同した地主が買収に応じてきた。

活動一〇年目の今年、湿原を一望できる高台から眼下に広がるまとまった土地を買い取る機会ができた。面積は約五〇万坪（一五〇ヘクタール）、購入代金は一二〇〇万円。この資金を調達するために、二月から二カ月間の「霧多布湿原五〇万坪買い取りプロジェクト」が始まった。約二五〇〇人の道内外の会員に案内を送り、地元には新聞折込で寄附を募った。新聞各紙でも紹介され、全国から応援のメッセージとともにたくさんの寄附がよせられた。週ごとにホームページ上で金額がグラフで示され、四月一〇日に目標額に届いた。その後も寄附は続き、最終的に一二五三人からの寄附と団体からの助成金とで一七二五万円が集まった。

未曾有の経済危機といわれる中でのキャンペーンにもかかわらず、これだけの成果をあげたのは、前身の活動から通算して二五年の地道な積み重ねがあったからであろう。振込用紙の通信欄やメールで寄せられたメッセージから多くの人の思いが伝わってきた。「がんばってください」「応援しています」という一言に交じって、「ありがとうございます」というお金を払う側が発するには似つかわしくない言葉も多く見られた。湿原を守る活

50万坪買取りプロジェクトに参加した
会員さんが保全地を見るツアー

動への感謝がこめられており、事務局のスタッフは大いに励まされたという。

◇ 多彩な環境活動、発揮される認定NPOの効果

霧多布湿原トラストの活動は、こうした民有地の買い取りによる保全とともに、地域の自然や壊れた湿原の再生と、交流や環境教育を通した霧多布湿原のファンづくりを柱としている。たとえば、湿原を埋め立て造成されたまま使われなくなっている土地を元に戻し、人の住まなくなった廃屋を撤去して景観の修復に取り組んだり、魚道づくりや湿原周辺部の森づくりなどもすすめている。また、学校での総合学習の時間に自然体験学習を行うなど環境教育に力を入れるとともに、会員との交流や地元特産物の販売を通じてのファンづくりにつとめている。海外からのボランティアや各種研修の受け入れにも積極的だ。

湿原を見渡すNPO事務所では
湿原保全の変遷がわかる

買い取りや事業活動の資金は、個人の会員以外にも企業や助成団体からさまざまな支援を受けているが、寄附者が税控除を受けられる「認定NPO法人」の効果も大きい。北海道で第一号の認定である。

認定NPOは、組織運営や事業活動が適正であるかなどの要件を満たすNPO法人が国税庁から認定される制度だが、全国の三万を超えるNPO法人のうちわずか九七団体に過ぎない。厳密な寄附者名簿や帳簿の管理、活動報告の整理など事務局の負担が大きくなるが、団体の社会的信用につながるメリットがある。

それでも当初は控除申請に必要な領収証を寄附者から求められることは少なかった。しかし、広報周知につとめたこともあり、このたびの「霧多布湿原五〇万坪買い取りプロジェクト」の際には、領収証の発行を求められることが多く、税控除申請が多数おこなわれる可能性があり、認定NPO効果がでてきたとみられる。

◇ 活動を支える人や地域のつながり

活動をすすめていくうえでは、行政や企業との協働も欠かせない。

浜中町とは、指定管理者制度によって霧多布湿原センターの運営をまかされているほか、二〇〇八年に景観保全協定を結んだ。放置された廃屋がある約七七ヘクタールの町有地を湿原に復元する活動をNPOが担っており、協定によってその土地を未来のこどもたちへ残すことが約束された。

また、企業による霧多布湿原における社会貢献活動は、さまざまなかたちがある。社員の寄附と同額を会社も寄附するマッチングギフトや、資金提供に加えて木道づくりなどの作業に社員がボランティアとして参加する取り組みなどが続けられている。最近では、アイスクリームで知られるハーゲンダッツジャパンがグリーン家電購入の際のエコポイント制度での交換による売上の一部をトラストに寄附することを発表している。

このように、会員、地元住民、役場、企業などさまざまな関係性に支えられて資金を調達しつつ土地の買い取りをすすめて保全するのだが、湿原の魅力だけでお金が集まっているわけではない。理事長の三膳時子さんは、「人に恵まれていると思っています。土地を売ってくださる地主さん、融資をしてくださる地元の金融機関、応援してくださる企業に対して、いずれも地味ながら堅実にコミュニケーションを継続できたことが今につながっています」と、人のつながりを何よりも大事にしていることを明かす。九人の有給スタッフを抱え、安定した生活が送れる給料を出せるよう財政基盤を強化するのが理事のつとめだと考えているが、今年度は念願だった地元の高校を出た新卒者を採用することができ、事務所は活気づいている。

◆ NPO法人霧多布湿原トラスト
所在地　厚岸郡浜中町仲の浜一二二番地
TEL　0153－62－4600
WEB　http://www.kiritappu.or.jp/